



地創新聞

第1号

2024.05.13

[制作]

北九州市立大学

地域創生学群

地域創生学群広報

地創新聞って？

地創新聞とは、北九州市立大学・地域創生学群の実習活動の1つである広報実習が作成した新聞です。この新聞では地域の皆様へ学群の魅力を伝えるために、学群に所属している学生だからこその目線で情報を発信することを目標にしています。今回の第1号の新聞では、2023年度に広報実習生が学群の他実習に密着し、取材してきたことを掲載しています。具体的に、広報実習以外の12実習（アダプテッドスポーツ実習、猪倉実習、キタキュープロモーション、小倉活性化プロジェクト、コミュニティソーシャルワーク実習、4211a.b.学生運営スタッフ実習、ESDプロモート実習、北九州食スマイル実習、キッズトレーニング実習、コミュニティスポーツ実習、スクールボランティア実習、ボン・ジョーノ実習）について、実習の概要とその実習に所属している学生の声を掲載しています。また、各実習生以外の人から見てその実習に対する感想と広報実習という他実習の目線から見たその実習の注目ポイントについて掲載しています。

地域創生学群って？

●幅広く学び、経験を積める学群！
地域創生学群とは、地域の再生と創造を担うことのできる実践力をもった人材の養成を目的とした授業を行なっています。特に実習や演習を通じて『問題を総合的に理解する力』を養うことを重要視しています。

実習活動って？

●1年次から実践的に学べるプログラム！
実習活動とは、地域の中での経験を基に地域の再生と創造を寄与する力を育成することを目的とした活動であり、学生は1年生の頃から2年間実際に地域へ出向き、その地域に入り込んで活動を行なっています。

広報実習とは？

●地域創生学群の活動発信！
私たち広報実習では、広く多くの方に地域創生学群を知ってもらうだけでなく、PRの考えをもとに私達を取り巻く方（個人・集団・社会）との望ましい関係をつくり出す広報を目指して活動をしています。また、地域創生学群で学ぶ当事者である学生の視点から広報戦略を考え、高校生や地域の方に魅力を伝える広報活動をしています。

アンケートへのご協力

お願いいたします！

より良い新聞を作成するために、ぜひアンケートへのご協力よろしくお願いたします。
※アンケートに回答していただいた内容は新聞向上以外の目的では使用いたしません。また、同意なしに第三者に回答内容を提供することはありません。
また、今回は実習活動に重きを置いた新聞内容となっていますが、地域創生学群には実習活動以外にゼミ活動やチャレンジプログラムというカリキュラムがあります。それについてはWEBサイトや公式Instagramで紹介しているため、次のQRコードを読み込んでご覧ください。



↑アンケート



↑WEBサイト



↑公式Instagram



(広報実習 園田・三坂)



最後までご覧いただき
ありがとうございました！！
次回は12月に発行予定！
お楽しみに～！！

アダプテッドスポーツ実習に迫る

実習概要



2023.12.10

体験会でのブラインドサッカーの様子

アダプテッドスポーツ実習は2022年度に開設された新しい実習です。この実習では、「アダプテッド・スポーツ*」を活用して地域の活性化を目指しています。具体的な活動として、2023年度は北九州市障害者スポーツセンターアレアス（以後アレアスと表記）で行われている「児童水泳教室」や「エンジョイススポーツ教室」での指導補助、実習生が主体となって新たなアダプテッド・スポーツを考案・体験する体験会、また地域の人々を招き、年齢に関係なく参加できるイベントを実習生が企画から運営までを担当し、北九州市立大学の体育館にて年に6回実施しました。これらのイベントでは、アダプテッド・スポーツを多くの人に知ってもらうためだけでなく、多世代交流の場として高齢者と子どもが関わりながら運動する機会を設けること、子どもたちの福祉教育・情操教育を行うことを目的としています。また、北九州市社会福祉協議会様と連携し、高齢者を対象とした健康増進・運動機会の増進を目的としたサロン活動も、2024年度より本格的に始動しています。

*アダプテッド・スポーツ (adapted sports) とは、年齢、性別、障がいの有無、運動の得意不得意に関わらず、誰でも楽しく安全に行うことができるように対象に合わせてルールや用具を適合させたスポーツです。

実習生に聞いてみた！

アダプテッドスポーツ実習の学生2名に、実習の中で感じた「やりがい」についてインタビューしました。インタビューでは学生が次のように述べていました。

アレアスでの児童水泳教室で、プールサイドからずっと手を離せない子がいました。毎週の教室の中で指導をしていると、勇気を出して手を離すことができました。その瞬間は非常に印象に残っています。保護者の方から「水泳教室に参加するまではチャレンジするタイプではなかった」と聞いていました。しかし、アダプテッド・スポーツの特徴である対象の子どもに合わせた指導や環境の工夫を行ったことで、子どもたちの「できない」が「できる」に変わることを実感しました。（2年）

昨年度の活動を通して、障がい者支援の難しさを知りました。活動を続けるうちにアプローチの方法が大事だということに気付き、先輩や施設の人など、支援に慣れている人を見て学ぶことでコミュニケーションのバリエーションを増やすことができました。また、気配りや積極的な声かけなどを心がけたことで視野が広くなり、自分が今までわからなかったことにも気付けるようになりました。（2年）

地域の方に聞いてみた！

子どもが小学校からもらったきたチラシで、地域創生学群の学生がアダプテッド・スポーツのイベントを行っていることを知りました。はじめは「アダプテッド・スポーツ」の存在を知らず、イベントに申し込んだことがきっかけとなり、言葉を調べました。イベントに参加したことで、子どもは積極的になり、アダプテッド・スポーツや障がいに興味を持ったと感じます。テレビなどで障がい者スポーツの様子を見たときに、子どもがルールを説明してくれたり、アダプテッド・スポーツについて話したりするようになり、成長を感じています。

（保護者様 インタビューより）

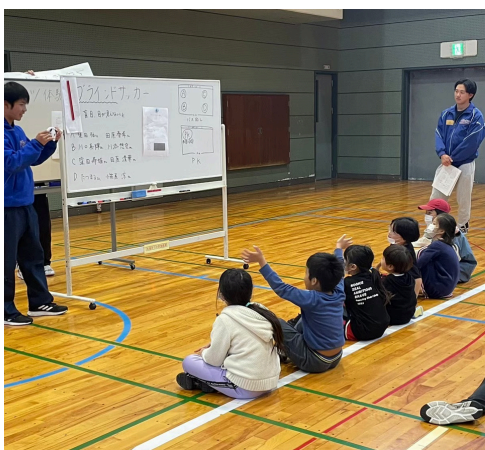
“体感”して学ぶ

広報実習生から見た注目ポイント

アダプテッドスポーツ実習で最も注目するべき点は活動範囲の広さであると感じました。自分たちで企画、運営を行うイベントやアダプテッド・スポーツを考案する体験会だけでなく、実際に障がい者支援を行っているアレアスとの活動や、北九州市社会福祉協議会様とも連携して活動を行っており、自分たちで考える活動と外部から学ぶ活動のサイクルが確立している実習です。

また、アダプテッドスポーツ実習では、障がいを持つている方の視点からスポーツの在り方を考えることができることも魅力です。目が見えないことがどれほど心細く怖いことであるか、取材を通して実感し、体験して学ぶことの重要さを感じました。

（広報実習 藤丸・三坂・米倉）



2023.12.10

アダプテッドスポーツ体験会

ESDプロモート実習に迫る

実習概要

ESDプロモート実習は、あらゆる世代に向けたESD・SDGsの周知と実践活動の推進（プロモート）を目的に活動しています。主な活動は北九州ESD協議会のサブコーディネーターの活動と実習活動です。北九州ESD協議会の活動では、北九州市民によりESD・SDGsについて知ってもらえるように「学び+楽しさ」を意識して、SDGsの目標をテーマに、「ESDツキイチの集い」を企画・運営しています。ESDプロモート実習生が主体となって企画する活動としては、ESDやSDGsに関する活動をされている方々へのインタビュー、イベントでの登壇などです。今後も幅広い世代の人たちを対象に、ESD・SDGsに取り組むことの重要性を分かりやすく伝えることを目指して活動していく実習です。



2023.12.17

ESDツキイチの集いの様子

実習生に聞いてみた！

Q 実習の良いところは何ですか？

A 学年の垣根を越えて意見を言い合えることです。毎週行われるミーティングでも1年生から自分の意見を発言することを求められるため、自分の考えを深める力が身に付きます。

Q 2024年度は、どんな実習にしたいですか？

A 2023年度は2022年度からイベントが増えたこともあり、忙しくも充実した1年でした。毎回、参加者の方々に楽しさ+学びを提供していますが、今年度は提供する側もこの楽しさ+学びについて深め、大切にしたいです。

地域の方に聞いてみた！

ESDツキイチの集いの参加者の方にインタビューをさせていただきました。

Q 参加したきっかけは何ですか？

A 登壇者の方と知り合いで誘われたからです。

Q このイベントの感想を教えてください。

A 学生と話せる良い場になりました。また、現在取り組んでいる日本の学生と留学生が交流できるスペースづくりの良いヒントを得ることができました。

Q 地域創生学群のイメージは何ですか？

A 地域創生学群はフィールドワークをするというイメージしかありませんでした。今回このようなイベントがあると知ることができたので、また機会があれば参加したいです。

多様なプロと関われる実習！

広報実習生から見た注目ポイント

年に数回行われる「ESDツキイチの集い」は、毎回テーマやゲストが異なり、ゲストと学生が直接やり取りをします。そのため、様々な分野のプロと直接関わることができ、実習生にとっても視野を広げる良い機会になります。また、一人ひとりが役割を持ち、全員でひとつのイベントを運営するため、強い責任感が身につく実習です。イベント後に参加者に話しかけに行ったり、社会人の登壇者や参加者を実習生が呼んだりするなど繋がりを大切に行っている姿も見ることができました。

(広報実習 太田・岡田・篠原)



2023.12.17

ESDツキイチの集い集合写真

猪倉実習に迫る

実習概要



2023.11.12

文化祭高槻（たかつき）でダンス披露

農業を通して地域の人と関わり、地域創生を行っていくことを目的に北九州市八幡東区高槻・猪倉地域を拠点に活動を行っています。町内会にも所属しており、サテライトという施設を拠点に、地域住民として週に1回のシフト制で実習生が宿泊を伴う農作業を実施しています。猪倉実習は「高槻まちづくり協議会」に所属しており、協議会の部会の1つである「里山の会」と主に関わっています。猪倉実習は3つの種類の畑で、それぞれ異なる作業を行っています。1つ目の畑は里山の会と北九大部会が共同で作業を行う畑。2つ目は地域の方と協力しながら、耕作放棄地の利活用を目標とし、地域のブランドとなる芋焼酎の原料をつくる畑。3つ目は地域の方のお手伝いから始まり、今では大学生が主体となって地域交流をしながら作業をしている畑となっています。猪倉実習は農作業だけでなく、北九州市内や高槻地域内のイベントに参加し出店したり、地域の人と交流会を行ったりなど幅広く活動しています。猪倉実習は農作物の販売だけではなく、地元企業である「無法松酒造」とコラボして、「ほたるの里」という名称の芋焼酎の生産・販売も行っています。「ほたるの里」の名称理由は猪倉地域がほたるで有名であるからです。ほたるは芋を作ることので育ちやすくなるため、猪倉実習は芋を作り猪倉地域の誇りであるほたるを守り続けています。

実習生に聞いてみた！

Q 猪倉実習に入ってよかったことはなんですか。

A やりたいと思うこと・目標が増えた。
A 日々の農作業や地域の人との関係作りなど大変なことが多い分、様々な学びが多い。

Q これから猪倉実習として担っていききたい役割はなんですか。

A 地域の内外の枠を超えた交流を生んでいきたい。大学生が地域で活動したからこそできなかった関係と地域をつなぎ、地域内だけでなく、地域外の方とも交流を増やし、地域外の人と地域をつなぐパイプ役を担っていききたい。

地域の方に聞いてみた！

〈文化祭たかつきにて 地域の方の声〉

・猪倉実習生と一緒に作業やBBQを行うなど楽しく関わっている。

〈猪倉実習と関わっている地域の方の声〉
・農機具や肥料など農業に関する知識をもっとつけてほしい。

・実習生には目に見えるような新しい活動を積極的に進めてほしい、協力していきたい。

・大きな成果を求めているのではなく、失敗を積み重ねた先で学んだことや活動を行ったこと、ようなことを考え感じたのかということ、私たちに伝え見せ、成長してほしい。

地創随一の地域密着型実習

広報実習生から見た注目ポイント

これまでの取材を終えて、猪倉実習の注目ポイントは高槻・猪倉地域との信頼関係がとて深いということ。そう感じたのは取材を行っている際、様々な場面において地域の方から頼られていたり普段通りの活動を行っている時に地域の方からおにぎりなどの差し入れをいただいていたりと、この差を見ただけです。これは実習生が地域に入り込み活動を行っていることで、地域の方との距離が近く、良好な関係が築かれているからこそのことであると感じました。その関係性は猪倉実習生が地域に対し真摯に向き合ってきたからこそ生まれたものであると考えられます。これからも地域の方とともにある猪倉実習の活動に注目し、引き続き応援していきたいと思えます。

（広報実習 盆子原・林・松嶋）



2023.9.2

高菜の植え付け作業

北九州食スマイル実習に迫る

実習概要

食事、食卓、食育をはじめとした食の大切さを理解し、食を通して地域の方が交流して安心できる居場所をつくることを目的に活動しています。

食の大切さを発信していくため、定例会議での食育講座の受講や食育レクリエーション、子ども食堂への訪問、1年生が企画する訪問講座など、様々な活動を行っています。また、北九州市内5ヶ所の子どもの食堂、コミュニティ食堂等と連携し、子どもや子ども食堂運営者・市民センター・行政との密接な関係づくりを通じて食べる楽しさや知る楽しさを地域の方から直接学んでいます。

2023年度の活動では、これまで食に対して学んできたことや身に付けてきた技術の集大成として、学内と学外で出店（実習生が作った料理の販売、子ども向けのイベント）を行い、大学や地域に大いに貢献しました。



2023.11.25
調理実習の様子

実習生に聞いてみた！

Q 日々の活動で心がけていることはなんですか？

A 全員が平等なタスク量で状況を把握して行動できるような手が空いている人をつくらない、分かっている人もあえて質問する、困っているような人が居たら積極的に声をかけるなど、コミュニケーションを密に取るための工夫をしています。

Q 日々の活動にどのような思いで取り組んでいますか？

A 食の大切さや楽しさを北九州市民に届けたい、活動で得た利益を地域に還元し、感謝の気持ちを伝えたい、という思いで活動しています。

地域の方に聞いてみた！

● 学外出店の参加者より

- ・実習生が明るく、優しい雰囲気です。
- ・居心地がよかったです。
- ・地域にこのような子どもが楽しめる場があるとありがたいと感じました。もっとこのような活動を行ってほしいです。

● 子ども食堂の施設の方より

- ・実習生が子どもとたくさん遊んでくれるため、助けられています。
- ・私たちは調理がメインなので、元気な学生が面倒を見てくれるのがとてもありがたいです。
- ・今後も今まで通りどんな企画を考えてやってほしいなと思っています。

食から生まれる深い絆

広報実習生から

見た注目ポイント

北九州食スマイル実習への取材を経て、実習生同士の信頼の強さや、他者を思いやる気持ちの強さを感じました。子どもと接することが苦手だったという実習生もいましたが、子ども食堂などの活動を共にし、コミュニケーション能力や、人と上手く関わる力を感じました。

実習生全員で行う定例会議では、実習生自身が企画したレクリエーションを実践し、楽しみながらより良い食育方法を模索して行っていました。楽しむときと真面目に動くときのメリハリがはつきりしているので、一つ一つの活動が充実しているように感じます。

（広報実習 盆子原・林・松嶋）



2023.12.2
学外出店の様子

キタキュープロモーション実習に迫る

実習概要

キタキュープロモーション実習では、北九州において創業支援を行っている「COMPASS小倉」を受け入れ先として、学生による企業・事業運営を行うことで楽しみながら稼ぐことを学んでいます。当実習は昨年度、4つの媒体に分かれており、それぞれ「キタプロカフェ」「大正さんぽ」「KIITA Light」「キタガチャ」の4媒体です。具体的に「キタプロカフェ」は学内外において、北九州の食材を使ったスイーツなどを販売しています。「大正さんぽ」は、門司港の魅力を発信していく目的で、門司港を舞台に、袴を着て非日常体験を楽しんでもらうイベントを提供しています。「KIITA Light」は北九州市の飲食店で排出された廃油を原料にキャンドルを作り、学内外で販売しています。「キタガチャ」は北九州の魅力伝えることを目的に、北九州関連のイラストが描かれたグッズをガチャの商品として販売しています。「キタプロカフェ」以外の3媒体は、学生がそれぞれ企業立案を行う「ビジネスプランコンテスト」で選ばれた企画であり、この「ビジネスプランコンテスト」は毎年5〜6月に行われています。



2023.11.18
キタプロカフェ出店

実習生に聞いてみた!

Q 実習に入って良かったことはなんですか?
A 売り上げに囚われているだけではないですが、売り上げにつながっていくための広報の仕方などといった、ビジネス関係の分野が学べることで
す。
A アイデア出しから材料集め、売り上げまで1からすべてやっていけることです。

Q 実習に入って身についた力はなんですか?

A 企業等へアポ取りなどを行うため、自主性が自然と身につきました。

A ビジネスプランコンテスト等を通じた発想力が身につきました。

キタガチャ班Nさん

「今年は去年行った企画を踏まえて、自分が楽しみながらできる企画という考えを加味しながらキタガチャを思いつきました。」

地域の方に聞いてみた!

キタキュープロモーション実習が運営する「キタプロカフェ」に潜入させてもらった際、地域の方の声やアドバイスを聞くことができました。

・今まで北九大の地域創生学群と言われてもピンと来ていませんでしたが、こういった出店をしている姿をたまに目にして少しずつ理解し、感心しています。

・同じ年ぐらいの大学生が出店している姿を見てとても驚きました。頑張ってほしいです。

・買う人は大学生が頑張ってるので、そういった部分を見ると購買意欲が増すので、そういった部分を全面的にアピールして声高々に売ったらもっと良くなると思います。

プロモーションをゼロから

広報実習生から見た注目ポイント

○今後活かせる力がたくさん!

この街をどのように「プロモーション」していくかを全員がゼロの段階から考えてプロジェクトを練っており、実習活動を通して想像力や企画力だけでなく、街や人に対する観察力、洞察力、北九州へのシビックプライドなどが身につくと感じました。

○実際の現場で学べる!

出店では、売る商品や売る場所、予算、販売目標など、事前から検討を施すだけでなく、売れ行きや客層、気候など、当日によって変化するものに対しても臨機応変に対応しており、現場でしか感じられない雰囲気を感じることができました。

(広報実習 伊東・坂上・園田)



2023.11.14
会議の様子

キッズトレーニング実習に迫る

実習概要

キッズトレーニング実習では北九州市の子どもたちを対象に、幼児期に必要な体力習得や運動能力の向上、運動機会の提供を目的として、スポーツ教室の運営・開催を主な活動として取り組んでいます。また、2024年度からは、より多くの子どもたちを対象として活動範囲を広げるため、地域の幼稚園に対する訪問の運動教室を実施します。これらの活動を通して、スポーツ・運動指導を通じた地域への貢献を目指しています。

活動の特筆すべき点として、年間20回にわたる「キッズトレーニング教室」を開催しています。これらの教室では、企画から運営までを1・2年生、総勢20名と担当教員の佐藤先生とで教室を実施しています。活動の中では、教室の肝となる運動指導に関する勉強会の実施から、新しい「運動遊び」の考案など、多岐にわたる活動に取り組んでいます。所属している実習生全員が、子どもたちの立場になって「どうすれば子ども達に楽しみながら運動能力を向上してもらえるか」を考えて活動しています。特にこの実習では、教室に参加する子ども達の募集段階から、教室の運営までを学生主体で行っていることから、マネジメンツ力、企画・運営力、指導・対応力、リスクマネジメンツ力、問題解決力、幼児期の子どもについての専門的な知識を身につけることができます。



2023.12.20
キッズトレーニング教室の様子

実習生に聞いてみた!

実習生に「実習で得られた力」を尋ねた際、最も多かった意見は、「子どもたちに対する接し方、指導の仕方を学ぶことができた」というものでした。実習生の中には、「高校までで培った部活動のノウハウを活かし、実習に参加してくれた子どもたちへの動きを教えたい」「将来、ダンスの先生として、子どもたちに指導していく立場になるための能力を身に付けたい」という理由からこの実習に取り組んでいる学生もいます。

学生たちからは、「教室の企画・運営を通して、着実にマネジメンツ力、指導力を身に付けることができた」と成長を実感する様子が見られました。また、「実習では困難な場面も多くあるが、やり遂げた際には、達成感や自分自身の成長を感じることができる」と話していました。

(実習生インタビューより)

地域の方に聞いてみた!

キッズトレーニング教室に参加されている保護者の方々からは、学生による教室運営が非常に高く評価されています。インタビューでは、教室における学生の指導に対する高評価の声を多く聞くことができました。たとえば、「子どもの足が速くなった」「運動不足を解消する機会になっている」「大学生と関われる機会はめったにないのでよい取り組みだと思う」などの意見がありました。また、「男子学生が子どもたちと丁寧に関わってくれたことで、子どもが大人の男性(幼稚園の先生など)を怖がらなくなった」「子どもが毎回の教室を楽しみにしている」といった声も多数あり、実習生の人柄の良さも高く評価されています。このように学生一人一人が責任を持ち、実習活動に取り組んでいるため、保護者からは、これからも継続して子どもを教室に参加させたいという声が多く寄せられています。

(保護者インタビューより)

サイクルの確立こそ強み?!

広報実習生から見た注目ポイント

キッズトレーニング実習は対象が「子ども」と明確であるため、「子ども」に関する知識をどの実習よりも深く学ぶことができる点が注目ポイントだと思われました。具体的には、キッズトレーニング教室開催において実践と振り返りのサイクルが確立されている点、キッズトレーニング実習の強みであると考えます。サイクルとしては①指導案を作成②リーダー会で吟味③全体会にて模擬教室④キッズトレーニング教室での実践活動⑤実習生全員で反省。を行っており、一回の教室を作り上げるために様々な工夫をしていることがわかりました。また、教室の活動外でも常に子どもたちを気にかけて、意思疎通をはかっている実習生の姿は、将来多岐にわたって様々な現場で通用する人材と言えるのではないかと感じました。

(広報実習藤丸・三坂・米倉)



2023.12.6

教室開催前の学生間でのミーティング、模擬教室の様子

小倉活性化プロジェクト実習に迫る

実習概要



2023.10.28

idea+朝会「ボードゲームで盛り上がりよう！」

小倉活性化プロジェクト実習(略称：小倉活性化PJ実習)は「小倉のまち」の活性化を図ることを目的に、3つの媒体に分かれて活動を行っています。媒体は「idea+」・「Kokulike」・「greenbird」の3つがあり、実習生はこの中の1つに所属しています。具体的に「idea+」は、新しい学びの場となるようなイベントを企画・開催し、新たなコミュニティが生まれる場作りを目指して活動をしています。「Kokulike」は、小倉の魅力ある飲食店や社会人、企業に取材をして記事を書き、SNSを通して発信するという活動を行っています。「greenbird」は「きれいな街は人の心もきれいにする」をコンセプトに原宿表参道で始まったプロモーション活動の中の小倉チームとして清掃活動を行っています。また、小倉活性化PJ実習では媒体活動以外にも「全体企画」や講師の方を招いて講座を企画・開催する「夜会」など、実習メンバー全員で取り組む活動も行っています。具体的に2023年度の「夜会」ではeスポーツの体験講座などが開催されました。

実習生に聞いてみた！

Q 実習に入って良かったことは何ですか？
A 社会人の講師の方に作成した資料を見せたときに褒められ、社会に出て通用する資料作成の技術が身についたことを実感できたことです。
A イベントを開催する度、地域の方との新たな繋がりが生まれることや普段関わることのない人と出会う機会があることです。

Q 実習に入って身についた力は何ですか？

A イベントの参加者に取り残されている人がいないかなど、常に周りを見て気を配り行動する力です。
A イベント当日から逆算をしてタイムスケジュールの作成時期や講師への連絡時期を計画するなどのスケジュール管理能力です。

地域の方に聞いてみた！

小倉活性化PJ実習生が企画・運営を行なったイベントに参加した方の感想やイベントの講師を務めた方から小倉活性化PJ実習生の印象を取材することができました。

△夜会・eスポーツ体験講座にて 参加者の声▽
・初めてパソコンでのゲームを行いました。小倉活性化PJ実習の方達がサポートしてくれたおかげで楽しく行うことができました。
・小倉でeスポーツを行える場所を知らなかった。今回とても良い機会になりました。

△車いすバスケットボール講座にて 講師の声▽
・メールのやり取りや対面での打ち合わせを複数回行っており、小倉活性化PJ実習生がしっかりと準備を行っている姿に感心しました。

人々をつなぐ仲介役！？

広報実習生から見た注目ポイント

これまでの取材を終えて、小倉活性化PJ実習の注目ポイントは、人と人をつなぐ仲介役になれるコミュニケーション力がつくことだと思います。実習生がイベント開催時に参加者同士のつながりが生まれるようにするため自らが話しかけたり、質問を投げかけたりしていた姿から、人々のつながりを生む力が小倉活性化PJ実習生には存在すると感じました。今後も取材を続けていき、小倉活性化PJ実習の魅力がたくさん見つけていきたいと思っています。

(広報実習 伊東・坂上・園田)



2023.12.9

夜会「Let's enjoy eスポーツ!〜ゲームの世界を楽しもう〜」

コミュニティスポーツ実習に迫る

実習概要

コミュニティスポーツ実習は、2022年度に始動した新しい実習です。「スポーツを通じた地域コミュニティの活性化」および「生涯スポーツ社会への寄与」を目的として活動に取り組んでいます。具体的な活動例として、2023年度には北方小学校や城野みのりクラブの子ども達を対象に、スポーツの新たな価値の提案やスポーツを通じた新たなコミュニティの創出を目的とした授業やイベントを年間で計14回実施しました。これらの活動では、コミュニティスポーツ実習の学生が考案したオリジナルスポーツを活用し、参加者子どもたちに対して勝利至上主義に縛られない「新しいスポーツの体験」を提供しました。さらに、北九州ウォーキング協会が主催するウォーキングイベントにも参加し、イベントの運営方法や、地域住民との交流を通じて地域に密着したスポーツの現状について実際に自分たちの足を運んで学びました。



2023.10.22
長崎街道（ウォーキングイベント）下見

実習生に聞いてみた！

イベント当日やイベント準備期間にインタビューをさせていただきました。

Q 実習に入って良かったと思うことは何ですか？

A 先輩、後輩の学年に関係なく仲が良かったため、楽しく活動できたことです。

Q 地域の人と関わる中で嬉しかったことはありますか？

A イベントに参加してくれた子どもにも名前を覚えてもらい、事後アンケートで「またイベントに参加したい！」と言って貰えた時に嬉しいと感じました。

Q 実習を通して身についたことは何ですか？

A 連携先との連絡により、礼儀やマナーが身に付いたことです。また、イベント開催によって企画力や運営力も身に付きました。

地域の方に聞いてみた！

城野みのりクラブ*と連携して開催しているスポーツ交流会でインタビューをさせていただきました。

Q コミュニティスポーツ実習を受け入れようと思った理由は何か？

A 子どもは体力、運動能力の低下をコミュニティスポーツ実習が考案してくれるオリジナルスポーツや運動で改善しようと考えたからです。

Q 実習生との関わりについてどう感じていますか？

A 子どもにとって危険な部分や、子どもが苦手とする部分を実習生との事前の打ち合わせで確認し合えるため関わりに満足しています。

Q 実習生のイベントを通じて、変化したことや何か影響がありましたか？

A 学生がスポーツ交流会で実施してくれたオリジナルスポーツが盛り上がったため、それを取り入れたイベントを開催したいと思いました。

*城野みのりクラブとは、北九州市社会福祉法人鳳雲会が運営する児童保育館です。



2023.11.25
城野みのりクラブイベント

実習生も連携先もwin-win！

広報実習生から見た注目ポイント

コミュニティスポーツ実習はイベント開催までに次のような工夫をしています。それは「①担当班がイベントの内容を企画し、実習内に企画書を共有する。②プレテストで学生自身が競技を試し、フィードバックする。③プレテストを踏まえて競技内容を修正し、連携先にイベントの説明を行う。④連携先のニーズを取り入れ競技の最終確認を行う。⑤イベント当日に参加者からの感想をもらい次回のイベントに活かす」という流れです。このようなサイクルを繰り返すことで連携先との関係性を構築しやすくなり、さらにイベントの質も向上しています。また実習生はイベントまでも準備の流れが分かりやすいため双方にとって活動しやすい環境だと感じました。

(広報実習 藤丸・三坂・米倉)

コミュニティソーシャルワーク（CSW）実習に迫る

※今後はCSW実習と省略して掲載



2023.12.23

毎月1回行われるイベントの
12月のクリスマス会での写真

実習概要

地域に強いソーシャルワーカーの育成を目的として、九州最大級の住宅団地である徳力団地をフィールドに、地域のつながりを作る活動をしています。

子どもから高齢者まで多様な世代を対象としています。近年、更に高齢化が進む徳力団地では、福祉ニーズにおいて高齢者を対象とした支援に力を入れています。団地の自治会と連携し、地域のつながりを目指した戸別訪問、サロン活動（おしゃべりカフェ）、ふれあいバザーなどの活動に取り組んでいます。また、団地の子どもたちへの支援活動として、放課後の子どもたちの居場所づくりを目的としたアンビシャス広場、夏休み中の孤食・欠食の防止を目的としたATB活動（遊ぼう・食べよう・勉強しよう）も行っています。

※ソーシャルワーカーとは、福祉や医療などの分野で相談や支援を行う職業

実習生に聞いてみた！

Q 戸別訪問での活動内容・効果は何ですか？

A 戸別訪問では、徳力団地の自治会に加入されている75歳以上の方々を対象に、自宅を訪問し「北九大生だより」を渡しています。この活動を行うことによって、自治会だけでは気づくことのできない住民の方の暮らしの様子や健康状態を知ることができるという効果があります。

Q 戸別訪問で工夫していることや気を付けていることは何ですか？

A 戸別訪問によって得た情報は個人情報になるため管理の仕方も工夫して行っています。また、コロナ禍以前に活動していたことの再開にあたり、まだ知らない方や認知していない方への訪問は名札の作成や事前の連絡など慎重に行っています。

地域の方に聞いてみた！

地域の方にCSW実習について聞いてみると、「学生がこうして話し相手になってくれると、足が悪い人からすると話すきっかけになるからうれしいです。」「引越してきて近所付き合いがない人からすると新しい情報や仲良くなるきっかけになります。」「などのコメントをいただくことができました。

今後取材したい活動

今後はおしゃべりカフェやアンビシャス広場、ふれあいバザー、夏休みに行われるATB活動にも取材して、よりCSW実習の魅力を皆様にお届けします。

多世代交流が魅力なCSW実習

広報実習生から 見た注目ポイント

CSW実習は、戸別訪問、サロン活動、ATB活動といったたくさんの方の活動を通して子どもから高齢者まで多様な方と交流することができます。福祉の実習ということもありますが、この力は将来社会人になっても必ず役に立つ力であり、現場での活動を通して伸ばすことができます。また、リスクマネジメントや問題が起きてからの臨機応変な対応もCSW実習では学ぶことができます。

（広報実習 太田・岡田・篠原）



2023.12.25

毎週月曜に行われる小学生の居場所づくりの
アンビシャス広場での写真

スクールボランティア実習に迫る

実習概要



2024.1.16

ハタチ☆ミライPJ

北九州市内の小学校2校と、支援学校1校の特別支援学級に入り、発達障害を抱える児童の学校生活をサポートしながら、障害分野と児童分野の福祉を学んでいます。具体的な活動としては、児童と学校生活を共に過ごし、学生と児童の間の信頼関係の構築を通して個別支援をすることです。実習生同士や小学校の先生たちとの情報共有の支援体制の強化を意識して活動しており、北九州市が実施している「子どものひまわり学習塾」の学生ボランティアとして、定期的に放課後の小学校へ訪問し、子どもたちの学習支援も実施しています。また、ハタチ☆ミライPJでは小学生を対象に、十数年後の自分を想像してもらうキャリア教育を行っています。

実習生に聞いてみた！

Q スクールボランティア実習ならではの学びとは何ですか？

A スクールボランティア実習生が2年生になって所属するゼミは、地域マネジメントコースとスポーツ・福祉コースでほぼ半々に分かれるため、スクールボランティアの活動を通して、地域をマネジメントする視点からも、福祉の視点からも、学びを得られることです。

Q イベントのリハーサルで特に気を付けて点検することは何ですか？

A 児童が怪我をしてしまうような、危険な場所や動作がないかということです。

地域の方に聞いてみた！

※スクールボランティア実習と連携している小学校からアンケート方式で取材に協力していただきました。

「大学生が教育活動に関わることで、児童が担任以外との大人と関わる機会ができています。また、コミュニケーションの機会や遊びの幅がさらに広がり、教員の負担軽減にも貢献しているため、スクールボランティア実習生と過ごせることを心待ちにしている児童もいる」という声をいただきました。そして、これからのスクールボランティア実習生に対して、積極的に児童に関わってくださる姿勢を、これからも継続してほしいという声をいただきました。

地域と子どもをつなぐ！

広報実習生から見た注目ポイント

普段の活動は、小学校との信頼関係を構築しながら慎重に行っており、慎重に行う中でも、ハタチ☆ミライPJでは、大学に訪問してきてくれる小学生の安全に注意した上で、いかに楽しみながら学ぶことができるのかということを考えていると分かりました。児童に安心感を与える会話方法や、お手本となる接し方を私たちもスクールボランティア実習生から学ぶことができました。

(広報実習 太田・岡田・篠原)



2024.1.16

ハタチ☆ミライPJ

ボン・ジョーノ実習に迫る

実習概要



2023.11.19
「わんぱく農園」の受付

ボン・ジョーノ実習が活動しているボン・ジョーノのまちは、BONJONO地区という環境未来都市北九州市の主要プロジェクトの一環として、「ゼロカーボン」「まちづくり」を掲げ、地域の特性を生かし、多様な世代が快適に暮らせる街をつくることを目指しています。この地域には住宅だけでなく、病院や商業施設、集会所「TEETEE」もあり、実習生はTEETEEを活動の拠点としています。

実習生の具体的な活動としては、住民同士のコミュニティを深めるための住民交流会「TEETEE会」でのイベント開催、「わんぱく農園」（農業体験）、そして「わたぼうしの会」（子育て世代向けの交流）が挙げられます。

さらに、任意プロジェクトとして、地域の居場所づくりを行う「たべTEETEE」の運営支援や掃除活動を行い、緑の維持管理と交流活動を目的とする「お掃除ラボ」など、地域活動にも参加しています。地域住民のニーズや困りごとに目を向けながら実習生自身の興味関心に基づき、独自のプロジェクトを提案・実施することもでき、それが実習生の学びにつながっています。

実習生に聞いてみた！

- Q 実習活動で良いと感じるところはなんですか？
- A 周りのメンバーのスキルレベル（例…コミュニケーション力・企画力など）が高いため、それに刺激を受けて自分も頑張ることができるところ。また、地域の方と関わることで正しい言葉の使い方やマナーを学ぶことが出来るところ。
- A 先輩の姿や同級生の姿を見て、日々自分の不足点を見出すことができる。
- Q 実習活動で学べることはなんですか？
- A 内側から住民と協働できることから「どう行動してほしい」など気持ちが汲み取れ、地域側からの別の視点を感じることが出来た。
- A 学生だからこそ失敗でき、失敗を恐れず学生の立場で企画ができた。
- A 企画書・議事録など社会に出た時に使えるスキルを学べた。
- Q 地域の方に聞いてみた！
- Q 実習生と活動してうれしいと思う瞬間は、なんですか？
- A 子ども達にとって実習生は新しいお兄ちゃん、お姉ちゃん的存在なため、イベントなどで実習生と子ども達が仲良くしている姿を見て、嬉しいと感じる。
- A 学生ならではの新しい視点がイベントや普段の活動に入ってくることが嬉しいと感じる。
- A 実習生に学びになっていると言われた瞬間。（子どもへの接し方や大人への対応、言葉掛け、企画の立案などの学び）
- A 月2回、イベントを開催するときに、子育てしている親だけでは人手不足なため実習生が入ってくれることで助かっていると感じる。

ボン・ジョーノだから学べる！

広報実習生から見た注目ポイント

イベントだけでなく地域と密に関わることから日頃の実習活動において住民の方たちとの関係を重視し、住民の方の視点に立って物事を考えることを学ぶことができます。また、定められた期間の中で企画を立案し、行動までに移さなければならぬため、ゴールから逆算して先を見通しながら企画を実行する力が身につきます。そして、「ありがとう」と言われることが実習生のモチベーションの源となっていることから、一つ一つのこと感謝を伝えることの重要さなど実際の地域に入り込まなければ学べない社会経験ができる実習です。

（広報実習 伊東・坂上・園田）



2023.11.11

月に1回ある地域ミーティング「部会」

421Lab. 学生運営スタッフ実習に迫る

実習概要

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は、地域社会における実践活動を通じ次世代を担う人材の育成を目指すとともに、本学の地域貢献活動の一翼を担うことを目的に、2010年4月に設置されました。

421Lab.には、子ども食堂や地域美化・復興支援等、地域に根差した約20の学生プロジェクトが活動に取り組んでいます。これらのプロジェクトをサポートする機関として学生運営スタッフが存在します。学生運営スタッフでは、主に3つのグループに分かれて日々の活動に取り組んでいます。一つ目の大学地域支援グループでは、オープンキャンパスや、小学生を対象としたキャンパスツアーを企画し、地域と421Lab.を繋ぐ活動に取り組んでいます。二つ目のプロジェクト支援グループでは、地域活動に取り組む学生に対し、研修や講座を開いてサポートを行っています。三つ目のLab.支援グループでは、広報誌などを通じて、学生の取り組みや活動の成果を発信しています。

『421Lab.』は、大学の住所【北方4-2-1】と研究室を意味する【Laboratory】を合わせて『421Lab.（エンニーイチ・ラボ）』と名付けられ、地域の課題と大学の教育を繋ぐ拠点になっています。

【421Lab.サイトから引用】



定期会議の様子

実習生に聞いてみた！

Q 421Lab.について、学生運営スタッフ所属の西江さんに取材してきました。

Q 421Lab.学生運営スタッフの魅力といえば何か教えてください？

A 魅力は、企業や地域の方々と細かくやり取りをするため社会人になったときに役立つスキルやマナー等をたくさん学ぶことができる点です。

Q 421Lab.の活動で鍛えられたと感じる力を教えてください。

A スケジュール管理力、視野の広さが特に鍛えられたと感じています。421Lab.では企業様や他学部生との共存が欠かせないため、先を見通したスケジュールが必須となるからです。

Q 421Lab.で活動していて楽しかったと感じた瞬間はどんな時ですか？

A 物事を達成した瞬間です。イベントや資料作成を皆で行うので、取り組んでいたことが成功したときの達成感を感じたときは最高です。

Q 421Lab.についてもっと知りたいのですが、どうしたらいいでしょうか？

A 二次元バーコードを読み取ってもらおうと、421Lab.のSNS公式アカウント(X(旧ツイッター)・インスタ)にアクセスできるので、さらに詳しい情報を知りたい方は、ぜひ見てみてください。



@421LAB_OFFICIAL

ココ！！

実習唯一！他学部と関われる！？

広報実習生から見た注目ポイント

421Lab.学生運営スタッフは、全学組織であるため、地域創生学群の学生だけでなく、他学部生も関わっています。そのため、他実習では作れない学部を超えた関係を構築できます。また、421Lab.では年度末に地域活動発表会を開催しており、プロジェクトごとに振り返りや今後の展望について発表を行っています。日頃から支援していただいている企業の方にも参加していただくなど、多くの人に活動を知ってもらおう場として位置付けています。

（広報実習 盆子原・林・松嶋）



2023.1.21
地域活動発表会